

出力見本 1



大会名 読書検定 大会

投稿日 2023年7月20日

投稿者 ペンネーム A A A

名前

所属

ワンセンテンス 普通かそうじゃないかなんて、考えることがそもそもおかしい。

感動理由 僕は幼稚園の時から歌う事が好きで、四年生の時に市内の合唱団に入りました。入団したことが嬉しくて友達に話したら、男のくせに合唱なんてと笑われました。普通男はスポーツだろと言われ辛かったです。担任の先生から、「最近合唱始めたんだって？お母さんからきいたわよ」と言われ、僕がびっくりしていると、「クラスみんなに聴きにきてって誘ってみれば？みんなに合唱の良さを教えてあげて」と言われました。僕は誘わなかったのですが、ある日先生がクラスみんなと発表を聴きに来てくれました。コンサートが終わってホールに行くとクラスの友だちがいました。何か言われるかなと思ってドキドキしていると、あっという間にクラスメイトに囲まれて、きれいな声で感動したと言ってくれました。以前僕に普通男はスポーツだと言っていた友人も、「すげーな！かっていいじゃん！」と言ってくれて嬉しかったです。この言葉は夏休みに読んだ本から見付けました。

書籍名 かがみの弧城

ワンセンテンス掲載ページ 文庫本（下）p.330

作者名 辻村深月

翻訳者名

出版社名 ポプラ文庫

書籍発見先 図書館

図書館名または書店名 学校図書室

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。
※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 2



大会名	読書検定 大会
投稿日	2023年7月20日
投稿者 ペンネーム	B B B
名前	
所属	
ワンセンテンス	会いたいと思ったら、会わなければいけない。好きな人がいたら、好きだと言わなければいけない。花が咲いたら祝おう。恋をしたら、溺れよう。嬉しかったら、分かち合おう。
感動理由	これが一期一会である。筆者はそう言う。「一期一会」が「一生に一度きり」を意味することは、私たちの誰もが知っている。しかし現代に生きる私たちほど、家族でも友人でも、これが最後の出会いになるかも知れないと想像する機会が、過去の時代と比べて乏しくなっているのではないだろうか。だから、会いたいと思った人に会わず終いにし、好きな人にも思いを告げられず、花が咲いても目一杯、喜ぶことが出来なくなっているのかも知れない。私は根拠もなく、「どうせ明日も今日と同じ日が続く」と思ってしまい、ずるずると本当に大切な人に伝えなければならないことを先延ばしにしているように感じる。今の私には、出会いの縁に対する誠実さと切実さが必要なのだ。
書籍名	日々(にちにち)是(これ)好日(こうじつ)ー「お茶」が教えてくれた15のしあわせー
ワンセンテンス掲載ページ	p.196
作者名	森下典子
翻訳者名	
出版社名	新潮文庫
書籍発見先	書店 (WEB店舗を含む)
図書館名 または 書店名	さわや書店本店

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。
※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 3



大会名	読書検定 大会
投稿日	2023年7月20日
投稿者 ペンネーム	CCC
名前	
所属	
ワンセンテンス	春香さんを見ていると、『人生』は楽しいものなんだってことを思い出すよ
感動理由	<p>ボランティア部のA先輩は優しくいつも笑っています。部活で老人ホームを訪問するときに先輩は終始笑顔で、おじいさんたちの人気者ですごいなって思います。ボランティア部は誰かの役に立ちたくて入部しましたが、楽しい事ばかりではありません。機嫌の悪いおじいさんもいますし、ホームの職員に怒られることもあります。ある時部活のミーティングでA先輩がこの本を紹介して話をしてくれました。</p> <p>「感情って伝染していくものだと思うの。誰かが楽しそうならその場は明るくなるし、誰か機嫌が悪い人がいるとその場はぎすぎすするわ。私は自分の笑顔で社会を明るくしようなんて大それたことは考えてないの。ただ、今日会ったおじいさんと来週も必ず会えるとは限らないの。だったら、最後に私の笑顔を思い出してほしい」。それから私は人とかかわりをすごく大切にして、相手が私を含めた一日の景色を楽しんでもらえるように心掛けるようになりました。</p>
書籍名	路（ルウ）
ワンセンテンス掲載ページ	P.475
作者名	吉田修一
翻訳者名	
出版社名	文春文庫
書籍発見先	図書館
図書館名または書店名	学校図書室

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。
※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 4



大会名	読書検定 大会
投稿日	2023年7月20日
投稿者 ペンネーム	D D D
名前	
所属	
ワンセンテンス	自分の力で友の窮地を救えないことがわかっている場合、本当の勇気とは怖くても見届けることだと思う。
感動理由	私が中学の卒業式を終えた頃、母は末期がんで亡くなった。人工呼吸器をした母が寝台で仰け反る。その痛みも引き受けてやることが出来なかった。私が出来たことは眼前の母から目を背けないことだけで、それが最後の誠実さだと直感した。人が本当の再生を目指したければ、壊れゆくものを怖くても見届けるしかない。その様を直視し見届けた末にしか、新たに芽吹く生き方を人は手に入れることはできないと感じる。
書籍名	獄中記
ワンセンテンス掲載ページ	p.385
作者名	佐藤優
翻訳者名	
出版社名	岩波書店
書籍発見先	書店（WEB店舗を含む）
図書館名または書店名	丸善丸の内本店

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。
※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 5



大会名	読書検定 大会
投稿日	2023年7月20日
投稿者 ペンネーム	E E E
名前	
所属	
ワンセンテンス	そして、どんなにつらくてもけっして泣かず、またけっして「どうしようもない」と言うてはいけない。
感動理由	弓道のインターハイに向けて県の代表を決める大事な最終試合で、副主将の私は規定射数の四本すべてを外すという大失敗をしました。私の後、最後に弓を引く事になっていた主将に「すみません、僕の責任です」と謝罪しました。もう無理だ、絶対に負けると思うと涙が出ました。インターハイまであと一步のところまで来ていたのに、私の前に弓を引いた部員の結果も無駄にしまいました。応援席では下級生も諦めて俯いていました。しかし主将はこう言ったのです。「泣くな。俺は諦めてない。見てろ、俺が全てあててやる」と。私はその日、諦めず強く願えば困難を乗り越えられるのだという事を経験しました。このワンセンテンスは全国大会に向かう飛行機の中で読んだ本で見つけたものです。この言葉は今でもあの日の主将の背中を思い出させてくれます。どんなに辛くても、泣いてないで立ち向かっていく力が人間にはあるのだと教えてくれました。
書籍名	天子蒙塵
ワンセンテンス掲載ページ	四巻p.359
作者名	浅田次郎
翻訳者名	
出版社名	講談社
書籍発見先	図書館
図書館名 または 書店名	市立図書館

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。
※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 6



大会名	読書検定 大会
投稿日	2023年7月20日
投稿者 ペンネーム	F F F
名前	
所属	
ワンセンテンス	装いとは、自分の個性に合ったものである、という定義に、私は真っ向から反対する。それよりも、装いとは、自分が化したいと思う個性に合ったものであるべきだ、と 思っている。
感動理由	この一文を目にしたのは、19歳の大学生の頃だ。その頃の私は酷く鬱屈していた。「身の程をわきまえろ」という世間の常識に自身を当てはめることについて、無思慮な反発と、愚鈍な安らぎの両方を感じていたためだ。その頃、駅前の本屋で出会ったのがこの一文だ。私は野心や虚栄心を許容する作者の姿勢に魅力を感じた。作者はまた「素顔の時よりも化粧した時の顔が、その女のほんとうの顔だ」とも言う。若者が装いや自己像を作り上げようとするとき、現状の自身に合わせず、志向するその先に照準を合わせると作者が説いているように聞こえた。19歳の私はこの時、マグマのような野心と虚栄心をもとに、ある職業を志した。四半世紀後、私は今、その職業に就いている。
書籍名	サイレント・マイノリティ
ワンセンテンス掲載ページ	p.198
作者名	塩野七生
翻訳者名	
出版社名	新潮社
書籍発見先	書店（WEB店舗を含む）
図書館名または書店名	増田書店 南口店

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。
※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 7



大会名 読書検定 大会

投稿日 2023年7月20日

投稿者 ペンネーム G G G

名前

所属

ワンセンテンス ずっとエゴを捨てたいと思っていました

感動理由 私は学生時代から社会人になった現在まで周囲の人たちの能力の低さに悩まされてきました。何故他人はこんな簡単な問題を一人で解決できないのだろうか。でも、能力が高いはずの私はいつも不機嫌で、能力が低いはずの同僚はいつも楽しそうでした。自分でも分かっていました。問題は自分にあると。しかしそれをどう解決すればいいかわかりませんでした。

ある時飲み席で酔った勢いでその事を話すと、一瞬の沈黙の後その場が大笑いとなりました。私がむっとしていると同僚がこう言ったのです。「それは能力が高いんじゃない。エゴが強いんだよ。こうでなければいけないというのは捨てるよ。人間も仕事も、道もゴールも無数にあるんだよ」と。そしてこう言うのです。「そういう時はな、一緒になって笑うんだよ」と。ムッとしましたが、しまいにはおかしくなって笑ってしまいました。この本はそんな友人の薦めで読みました。

書籍名 ザ・ロイヤルファミリー

ワンセンテンス掲載ページ p.607

作者名 早見和真

翻訳者名

出版社名 新潮文庫

書籍発見先 図書館

図書館名または書店名 県立図書館

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。

※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 8



大会名 読書検定 大会

投稿日 2023年7月20日

投稿者 ペンネーム H H H

名前

所属

ワンセンテンス 外へ外へと向かえば、最後は中心に戻ってしまう。だからといって、諦めて、動くことをやめると、その瞬間に消えてしまうのです。それが生命の定義

感動理由 私は北国の山村で生まれた。前時代的な風土が残る土地で、能力も容姿も凡庸であることが好まれた。私はその山村からはじき出されるように外に出た人間だ。様々な都市に移り住んだ私の言葉から、いつしか地元のイントネーションが消えていた。そんな時、この一文が目にとまった。山村でみた黄色い小花が思い出されたからだ。高校時代の休日、私は木々に朝露が残る早朝に散歩し、雑草の中でその黄色い小花を見かけた。露に日の光が反射し、小ぶりさが際立つ可愛らしい花だった。何十年も昔の記憶だ。外へ外へ向かった私が、最後は中心に戻って来たのだろう。なぜかこの簡素な文は、私の生に物語を与えてくれた。

書籍名 有限と微少のパン

ワンセンテンス掲載ページ p.826

作者名 森博嗣

翻訳者名

出版社名 講談社

書籍発見先 書店（WEB店舗を含む）

図書館名または書店名 押田謙文堂

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。

※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。

出力見本 9



大会名 読書検定 大会

投稿日 2023年7月20日

投稿者 ペンネーム | | |

名前

所属

ワンセンテンス 私たちは自分の時間の大部分を、最も重要だと本当に思っていることに費やしてはいないのだ。

感動理由 この言葉に出会うまでは、家族のためにも、自分のためにも、仕事をして、稼ぐことが何よりも大切だと思っていました。しかし、この言葉に出会って、結婚記念日、家族の誕生日、子供の運動会、授業参観の方が、仕事より大切なことを思い出しました。生活費を稼ぐだけの人ではなく、夫、父親であることを思い出しました。良き夫、良き父親であるために、仕事の仕方をもっと工夫しようと決意しました。

書籍名 「死」とは何か イェール大学で23年連続の人気講義

ワンセンテンス掲載ページ p.80

作者名 シェリー・ケーガン

翻訳者名 柴田裕之

出版社名 文響社

書籍発見先 自宅本棚

図書館名または書店名

投稿を行なうと上記のスタイルで出力ができます

投稿を行なった後に「出力ボタン」をクリックしてください。

※マイページの「投稿・投票実績」からも出力ができます。
※名前・所属は、出力後にご自身で記入してください。